全国一律制度と最賃1500円以上を求める署名

TOKYO はたらく仲間 238

2023年2月15日（毎月15日発行）

発行　東京地方労働組合評議会（東京地評）
定価　1部40円（送料別）

〒170-0005　豊島区南大塚2-33-10 東京労働会館
TEL　03（5395）3171
FAX　03（5395）3240
E-mail　lapaz@chihyo. jp
URL　http://www.chihyo.jp

労働組合の真価問われる春闘スタート

生活擁護、軍拡増税反対の声広げ 物価高騰を上回る賃上げ勝利必ず

異次元の物価高騰が続く中、暮らしと命が脅かされる仲間が増えています。物価高を上回る賃上げを必ず実現しなければなりません。アジア外交の柱、憲法の理念である専守防衛をかなぐり捨てる岸田政権。空前の軍拡と増税が未来を奪おうとしています。生活擁護と軍拡増税反対の23春闘が始まります。

軍拡増税許さないとバンクシー調の横断幕が素敵な南部ブロックの皆さん（23国民春闘中央総決起集会）

コロナ第8波の広がりが懸念される中、1月6日早朝、東京駅をはじめ主要5駅で新春早朝宣伝を総勢250人以上の参加でスタート。続く12日には厚労省前での全国一律最賃制と裁量労働制拡大に反対する集会、その後東京會舘前から丸ノ内デモを500人で行い、昼下がりに道行く会社員や買物客に春闘勝利、労働組合加入を訴えました。集結地点の日本経団連前では、国民春闘代表幹事の小畑さんが「企業は内部留保を増やし、労働者の実質賃金は減り続けた。ストも辞さず、全ての労働者が物価上昇分を上回る賃金を勝ち取る」と決意を語りました。弁士に立った組合役員は、内部留保を吐き出し賃金の大幅引き上げ、労働時間法制の規制強化反対、全国一律1500円の最賃実現を求める訴えを行い、参加者全体で春闘勝利の一大決起を職場や地域から広げる決意を固め合いました。

大企業は内部留保を吐き出し労働者の賃金に使え（1／12大手町経団連前）

◇◇◇

1月24日には春闘総決起集会を中野ゼロホールで開催、620人が駆け付けました。主催者挨拶にたった矢吹義則代表は中小企業の7割が原材料高騰分を価格転嫁できず賃上げが困難としている新聞報道に触れ、「大手企業が適正価格の交渉・支払いに応じ、政府が中小企業対策予算を組むことが重要」と指摘。実質賃金を上昇に転じさせる社会的な賃金闘争を呼びかけました。集会では東京医労連、東京土建、東京地評女性センターと青年協議会、南部地域ブロックの組合員が登壇しパフォーマンスで客席を大いに沸かせました。

若手組合員に向けた春闘と労働組合学習会（2／4）

暮らしと平和守る23春闘

東京春闘共闘会議
事務局長　白滝　誠

東京新聞は24日の社説で「今春闘は労組の存在意義をかけた闘いでもある。掲げた目標を必ず勝ち取ってほしい」と、大幅賃上げに期待を込めました。コロナ禍で雇用が悪化しているうえに、40年ぶりの異常な物価高です。収入が伸びなければ消費も地域の経済も回復しません。

財界は「賃上げ重視、企業の責任」と言うものの、五百五兆円も溜め込んだ内部留保の活用はしようとしません。

実質賃金を上昇させ 消費と地域経済の立て直しを

東京地評が行った暮らしのアンケートは切実な実態が鮮明です（2面）。資材高騰も深刻で、働く人の7割を占める中小企業は価格転嫁が出来ず経営難にあり、「賃上げできない、予定なしが」72%です（城南信金調べ）。

苦しい国民をかえりみずに岸田首相は、「敵基地攻撃」のため軍事費倍増、その財源には大増税を狙っています。

東京春闘共闘は、大幅賃上げと中小企業支援の拡充、軍拡と増税の阻止へ、ストも構えて全力で臨みます。

保育士の処遇改善を通じて地域に波及効果をつくる

江戸川区労連

区労連には、私立保育園3園が加盟しています。区は1月16日の自治体キャラバンで、待機児童数がいないと誇らしげに話していました。しかし、既存の区立保育園を使い、運営は民間に丸投げをしているのが実態です。私立の保育士に対し区は、家賃補助等を行い区職保育士との賃金格差をなくしていると主張していますが、退職金に大きな格差が有ります。区職員と同等の待遇を求めていきます。一方で公契約条例制定による職員の姿勢にも変化が見られます。紙やインクなど材料高騰が続く印刷発注者の実態を注視する発言が出ており、小零細事業主、未組織労働者とも連帯して生活防衛をすすめたいと考えています。

さて、労連では旗開きを親睦と兼ねて加盟組合25人でボウリング大会を行いました。疎遠となった組合員に久しぶりの笑顔が戻っています。この力を支えに春闘ビラの配布や駅頭宣伝を広げながら地域から労働組合を元気にさせることも今春闘の大きな目標です。

宇田川耕史議長

横倉一夫財政部長

安全・安定輸送問題を利用者に伝え、1万3000円のベア掲げる　国労東京

国労東京は、23春闘を職場からの運動と位置づけ、安全・仕事総点検運動と連動する取り組みとして全力を挙げることを提起しました。

JR職場では「ワンマン運転の拡大」「無人化の拡大」など、合理化・効率化が実施されています。職場では、不平・不満・矛盾を現場長との話し合い・申し入れ行動を展開し職場環境の改善を求めていきます。春闘行動として駅頭宣伝で利用者にも安全問題をアピールし、全分会長会議では春闘勝利の総決起の場と考えています。

安全・安定輸送の確立とJRとグループ会社に働く労働者の労働条件・処遇改善に全力を挙げ、定期昇給の完全実施と基本給4・8%相当額、1万3000円を基本とするベースアップを求めると共に「格差是正」と暮らしの「底上げ」を掲げ奮闘する決意です。